

## ボーダーフリー大学の量的規模に関する 基礎的研究 (2)

葛城 浩一 (大学教育基盤センター准教授)

宇田 響 (広島大学大学院)

### 1. はじめに

「ボーダーフリー大学」とは「受験すれば必ず合格するような大学、すなわち、事実上の全入状態にある大学」<sup>1)</sup> のことである。ボーダーフリー大学は、入試による選抜機能が働かないため、基礎学力や学習習慣、学習への動機づけの欠如といった、早ければ小学校段階から先送りされてきた学習面での問題を有する学生を多く受け入れている。そのため、そこには日本の高等教育（特に大学）が抱えている問題が凝縮されて顕在化していると考えられる。今後の日本の高等教育のあり方を考える上でも、ボーダーフリー大学を研究対象とすることは非常に重要であるといえるだろう。

しかし、ボーダーフリー大学が研究対象とされることはこれまでほとんどなかった。なぜなら、山田 (2009) も指摘するように、「(日本の) 大学研究の視点は、旧来のエリート大学、すなわち現在の研究大学を中心にしたもの」(山田、2009、33 頁、括弧内は筆者による) だからである。そのため、ボーダーフリー大学については研究蓄積が十分でないだけでなく、基礎的情報すら十分に整理されていない状態にある。すなわち、ボーダーフリー大学に所属する学生や教員の量的規模すら明確には把握されていないのである。

そこで、葛城・宇田 (2016) では、定員充足率や偏差値を手がかりとして、ボーダーフリー大学及びそこに所属する学生や教員の量的規模に関する基礎的情報を整理した。具体的には、2012～15 年版の『大学ランキング』に掲載されている入学定員数を足し合わせた数を、2015 年版の『大学ランキング』に掲載されている在籍学生数で除することで算出された定員充足率や、2015 年版の『大学ランキング』に掲載されている「入試難易度ランキング」に基づく偏差値を手がかりとして、ボーダーフリー大学及びそこに所属する学生や教員の量的規模を把握した。

本稿はさらに、葛城・宇田 (2016) とは異なる定員充足率や偏差値を手がかりとして、ボーダーフリー大学及びそこに所属する学生や教員の量的規模に関する基礎的情報を整理するものである。具体的には、ある特定年度の入学定員数をその年度の入学者数で除することで算出された定員充足率や、2015 年版までの『大学ランキング』に掲載されている「入試難易度ランキング」に基づく偏差値とは大きく異なっている 2016 年版のそれを手がかりとして、ボーダーフリー大学及びそこに所属する学生や教員の量的規模を把握する。それらを通して、今後のボーダーフリー大学研究に資する基礎的知見を提供したいと考える。

## 2. 研究の方法

定員充足率を手がかりとして、ボーダーフリー大学及びそこに所属する学生や教員の量的規模に関する基礎的情報を整理する上で、まず留意しておきたい点がある。すなわち、複数の学部からなる大学では、ある学部では定員充足していなくても、別の学部では定員充足している場合があるという点である。この場合、大学全体でみた場合に定員充足していなければボーダーフリー大学であると考えられることも可能ではある。しかしそれでは、ボーダーフリー大学の実態を見誤る可能性があると考え、本稿では学部ごとにみていくことにしたい。この点を考慮して、以下では「ボーダーフリー大学・学部」という表記を用いることとする。

本稿で用いるのは、葛城・宇田（2016）と同様に、朝日新聞出版『大学ランキング』である。まずはこれを用いて、定員充足率を把握することから始める。具体的には、2016年版の『大学ランキング』に掲載されている入学定員数を、2016年版の『大学ランキング』に掲載されている入学者数で除することで、定員充足率を算出する<sup>2)</sup>。そうした方法で算出された定員充足率を手がかりとして、ボーダーフリー大学・学部及びそこに所属する学生や教員の量的規模を把握したい（第3節）。

この算出方法は、葛城・宇田（2016）で用いた算出方法に比べ、多くの手続きを要さないため、より容易に定員充足状況を判断することが可能である。また、編入学の学生を算出式に含まないため、定員充足率を実態よりも高く見積もってしまう可能性を回避することも可能である。にもかかわらず、葛城・宇田（2016）でこの算出方法を用いなかったのは、『大学ランキング』に入学者数を掲載していない大学・学部が少なくなかったためである<sup>3)</sup>。

しかし、ここ数年で情報公開が飛躍的に進んでいるため、『大学ランキング』に入学者数を掲載していない大学・学部は随分少なくなっている。具体的には、葛城・宇田（2016）で分析対象とした「医・歯・薬・看護・保健」及び「農・水産」以外のカテゴリに掲載されている私立大学の学部でこれに該当するのは、2012年版では193学部であったが、2015年版では41学部であった。入学者数を掲載していない学部こそ、定員充足率が低いのではないかと推察されるため、定員充足率を実態よりも高く見積もってしまう可能性は依然としてあるのだが、その可能性は年々低くなっているものと考えられる。

分析対象とするのは、2016年版の『大学ランキング』に掲載されている「入試難易度ランキング」で「医・歯・薬・看護・保健」及び「農・水産」以外のカテゴリに該当する私立大学の学部<sup>4)</sup>である。なお、「医・歯・薬・看護・保健」及び「農・水産」といったカテゴリに該当する学部及び国公立大学を分析対象から除外した理由については、葛城・宇田（2016）を参照されたい。分析対象の学部の中には、依然として入学者数を掲載していない学部も散見されるが、そうした学部については当該大学・学部のホームページを参照してもそれが明らかでない場合には、分析対象から除外することとした。したがって、第

3 節の分析対象となるのは、これらの条件に該当する 5 学部を除く 1,311 学部<sup>5)</sup>である。

また本稿では、定員充足状況との相関が高い偏差値を手がかりとして、端的に定員充足状況を判断する際の基準を明らかにするとともに、その基準でみた場合のボーダーフリー大学・学部及びそこに所属する学生や教員の量的規模を把握したい(第4節)。なお、偏差値は2016年版の『大学ランキング』に掲載されている「入試難易度ランキング」に基づくものである。

葛城・宇田(2016)でも同様の分析を行っているため、違う年度のデータを用いているだけのようにみえるかもしれないが、そういうわけではない。なぜなら、先述のように、2015年版までの『大学ランキング』に掲載されている「入試難易度ランキング」に基づく偏差値は、2016年版のそれとは大きく異なっているからである。すなわち、2015年版までのそれは代々木ゼミナールから得たデータを用いて作成されていたのだが、2016年版のそれは河合塾から得たデータを用いて作成されているため、値が大きく異なっているのである。具体的には、2015年版までのそれにはいずれの学部にも偏差値が付されていたのだが、2016年版のそれには「ボーダー・フリーの大学・学部」(合格率50%となるラインがどの偏差値帯においても存在しない大学・学部と定義されている)には偏差値が付されていない。なお、このことは、「ボーダー・フリーの大学・学部」が「入試難易度ランキング」に掲載されていないことと同義である。また、2016年版で付された偏差値は2015年版までに付された偏差値よりもかなり低い値となっている。なお、その対応関係については、葛城・宇田(2016)を参照されたい。

分析対象とするのは、2016年版の『大学ランキング』に掲載されている「入試難易度ランキング」で「医・歯・薬・看護・保健」及び「農・水産」以外のカテゴリに該当する、偏差値45以下の私立大学の学部である(偏差値が付されていない「ボーダー・フリーの大学・学部」を含む)。したがって、第4節の分析対象となるのは976学部<sup>6)</sup>である。

(葛城浩一)

### 3. 定員充足率

#### 3-1. 学部数

本節では、定員充足率を手がかりとして、ボーダーフリー大学・学部及びそこに所属する学生や教員の量的規模を把握したい。まず、定員充足状況別に学部数を示したのが表1である。なお、上段に示しているのは各区分に該当する学部数、中段に示しているのはそれ以下の区分に該当する学部数を累計した学部数である(表2についても同様に表記)。また、下段に示しているのは中段に示している値(学部数(累計))が日本の大学の総学部数(昼間のみ、2,329学部)<sup>7)</sup>に占める割合である。

この表からもわかるように、定員充足率100%未満の学部は500学部に迫る勢いであり、これは日本の大学の総学部数(昼間のみ)の20%以上を占めている。また、定員充足率

75%未満の学部はその半数近くを占めている。なお、定員充足率50%未満の学部が日本の大学の総学部数に占める割合はわずか2%程度<sup>8)</sup>ではあるものの一定数存在していること、また、その中には定員充足率が11.7%と極めて低い学部もあることには留意しておきたい。

表1 定員充足状況別学部数

	50%未満	50%以上-75%未満	75%以上-100%未満	100%以上-125%未満	125%以上
学部数	56	168	258	781	48
学部数(累計)	56	224	482	1,263	1,311
総数に占める割合(累計)	2.4%	9.6%	20.7%	54.2%	56.3%

表1の結果を専門分野別に示したのが表2である。なお、下段に示しているのは中段に示している値(学部数(累計))が、2016年版の『大学ランキング』に掲載されている「入試難易度ランキング」の当該カテゴリに該当する、定員充足率を算出することができた私立大学の総学部数に占める割合である。

この表からもわかるように、定員充足率100%未満の学部が実数として相対的に多いのは、「文・人文(教育)・外国語」系や「経済・経営・商」系であるが、総学部数に占める割合が相対的に高いのは、「社会・国際」系や「経済・経営・商」系、「芸術・スポーツ科学」系である。定員充足率75%未満でみた場合でも同様の傾向がみられる。なお、定員充足率50%未満でみた場合でも同様の傾向がみられるが、総学部数に占める割合については、「法・政治」系は「経済・経営・商」系や「社会・国際」系と同水準にある。

表2 定員充足状況別学部数(専門分野別)

		50%未満	50%以上-75%未満	75%以上-100%未満	100%以上-125%未満	125%以上
法・政治	学部数	5	5	16	56	5
	学部数(累計)	5	10	26	82	87
	総数に占める割合(累計)	5.7%	11.5%	29.9%	94.3%	100.0%
経済・経営・商	学部数	16	44	60	149	5
	学部数(累計)	16	60	120	269	274
	総数に占める割合(累計)	5.8%	21.9%	43.8%	98.2%	100.0%
文・人文(教育) ・外国語	学部数	15	52	75	231	13
	学部数(累計)	15	67	142	373	386
	総数に占める割合(累計)	3.9%	17.4%	36.8%	96.6%	100.0%
社会・国際	学部数	9	28	47	78	6
	学部数(累計)	9	37	84	162	168
	総数に占める割合(累計)	5.4%	22.0%	50.0%	96.4%	100.0%
芸術 ・スポーツ科学	学部数	8	21	20	54	9
	学部数(累計)	8	29	49	103	112
	総数に占める割合(累計)	7.1%	25.9%	43.8%	92.0%	100.0%
生活科学	学部数	1	6	27	51	1
	学部数(累計)	1	7	34	85	86
	総数に占める割合(累計)	1.2%	8.1%	39.5%	98.8%	100.0%
総合・環境 ・情報・人間	学部数	2	13	19	47	3
	学部数(累計)	2	15	34	81	84
	総数に占める割合(累計)	2.4%	17.9%	40.5%	96.4%	100.0%
理・工・理工	学部数	3	10	15	119	6
	学部数(累計)	3	13	28	147	153
	総数に占める割合(累計)	2.0%	8.5%	18.3%	96.1%	100.0%

### 3-2. 学生数

次に、定員充足状況別に学生数を示したのが表3である。なお、上段に示しているのは各区分に該当する学生数、中段に示しているのはそれ以下の区分に該当する学生数を累計した学生数である(表4についても同様に表記)。また、下段に示しているのは中段に示

している値（学生数（累計））が日本の大学の総学生数（昼間のみ、2,529,403人）<sup>9)</sup>に占める割合である。

この表からもわかるように、定員充足率100%未満の学部には所属する学生は30万人を大きく超えており、これは日本の大学の総学生数（昼間のみ）の15%近くを占めている。また、定員充足率75%未満の学部には所属する学生はその3分の1程度を占めている。なお、定員充足率50%未満の学部には所属する学生が日本の大学の総学生数に占める割合はわずかに0.6%に過ぎないものの、1万5,000人近くも存在していることには留意しておきたい。

表3 定員充足状況別学生数

	50%未満	50%以上-75%未満	75%以上-100%未満	100%以上-125%未満	125%以上
学生数	14,798	90,534	243,237	1,271,328	48,656
学生数(累計)	14,798	105,332	348,569	1,619,897	1,668,553
総数に占める割合(累計)	0.6%	4.2%	13.8%	64.0%	66.0%

前項と同様に、表3の結果を専門分野別に示したのが表4である。なお、下段に示しているのは中段に示している値（学部数（累計））が、2016年版の『大学ランキング』に掲載されている「入試難易度ランキング」の当該カテゴリに該当する、定員充足率を算出することができた私立大学の総学生数に占める割合である。

この表からもわかるように、定員充足率100%未満の学部には所属する学生が実数として相対的に多いのは、「経済・経営・商」系や「文・人文（教育）・外国語」系であるが、総学生数に占める割合が相対的に高いのは、「社会・国際」系や「生活科学」系である。定員充足率75%未満でみた場合には、実数では同様の傾向がみられるが、総学生数に占める割合が相対的に高いのは、「芸術・スポーツ科学」系や「社会・国際」系である。なお、定員充足率50%未満でみた場合でも同様の傾向がみられるが、総学生数に占める割合については、「経済・経営・商」系は「社会・国際」系よりも高い値を示している。

表4 定員充足状況別学生数（専門分野別）

		50%未満	50%以上-75%未満	75%以上-100%未満	100%以上-125%未満	125%以上
法・政治	学生数	1,626	2,908	16,456	110,764	9,653
	学生数(累計)	1,626	4,534	20,990	131,754	141,407
	総数に占める割合(累計)	1.1%	3.2%	14.8%	93.2%	100.0%
経済・経営・商	学生数	5,536	29,567	79,052	283,590	6,756
	学生数(累計)	5,536	35,103	114,155	397,745	404,501
	総数に占める割合(累計)	1.4%	8.7%	28.2%	98.3%	100.0%
文・人文(教育) ・外国語	学生数	3,033	25,376	54,160	339,903	11,208
	学生数(累計)	3,033	28,409	82,569	422,472	433,680
	総数に占める割合(累計)	0.7%	6.6%	19.0%	97.4%	100.0%
社会・国際	学生数	2,048	13,605	43,243	101,152	4,348
	学生数(累計)	2,048	15,653	58,896	160,048	164,396
	総数に占める割合(累計)	1.2%	9.5%	35.8%	97.4%	100.0%
芸術 ・スポーツ科学	学生数	2,159	9,411	11,179	88,888	7,287
	学生数(累計)	2,159	11,570	22,749	111,637	118,924
	総数に占める割合(累計)	1.8%	9.7%	19.1%	93.9%	100.0%
生活科学	学生数	381	2,544	19,996	47,472	503
	学生数(累計)	381	2,925	22,921	70,393	70,896
	総数に占める割合(累計)	0.5%	4.1%	32.3%	99.3%	100.0%
総合・環境 ・情報・人間	学生数	505	6,114	20,984	59,138	1,972
	学生数(累計)	505	6,619	27,603	86,741	88,713
	総数に占める割合(累計)	0.6%	7.5%	31.1%	97.8%	100.0%
理・工・理工	学生数	665	6,925	12,615	256,135	6,929
	学生数(累計)	665	7,590	20,205	276,340	283,269
	総数に占める割合(累計)	0.2%	2.7%	7.1%	97.6%	100.0%



## 3-3. 教員数

最後に、定員充足状況別に教員数を示したのが表5である。なお、上段に示しているのは各区分に該当する教員数、中段に示しているのはそれ以下の区分に該当する教員数を累計した教員数である（表6についても同様に表記）。また、下段に示しているのは中段に示している値（教員数（累計））が日本の大学の総教員数（学部にも所属する教員のみ、92,989人）<sup>10)</sup>に占める割合である。

この表からもわかるように、定員充足率100%未満の学部にも所属する教員は1万5,000人近くも存在しており、これは日本の大学の総教員数（学部にも所属する教員のみ）の15%以上を占めている。また、定員充足率75%未満の学部にも所属する教員はその4割以上を占めている。なお、定員充足率50%未満の学部にも所属する教員が日本の大学の総教員数に占める割合はわずか1%程度に過ぎないものの、1,000人以上も存在していることには留意しておきたい。

表5 定員充足状況別教員数

	50%未満	50%以上-75%未満	75%以上-100%未満	100%以上-125%未満	125%以上
教員数	1,169	4,750	8,657	35,647	1,482
教員数(累計)	1,169	5,919	14,576	50,223	51,705
総数に占める割合(累計)	1.3%	6.4%	15.7%	54.0%	55.6%

これまでと同様に、表5の結果を専門分野別に示したのが表6である。なお、下段に示しているのは中段に示している値（教員数（累計））が、2016年版の『大学ランキング』に掲載されている「入試難易度ランキング」の当該カテゴリに該当する、定員充足率を算出することができた私立大学の総教員数に占める割合である。

この表からもわかるように、定員充足率100%未満の学部にも所属する教員が実数として相対的に多いのは、「文・人文（教育）・外国語」系や「経済・経営・商」系であるが、総

表6 定員充足状況別教員数（専門分野別）

		50%未満	50%以上-75%未満	75%以上-100%未満	100%以上-125%未満	125%以上
法・政治	教員数	106	137	444	2,172	204
	教員数(累計)	106	243	687	2,859	3,063
	総数に占める割合(累計)	3.5%	7.9%	22.4%	93.3%	100.0%
経済・経営・商	教員数	350	1,207	2,129	5,765	152
	教員数(累計)	350	1,557	3,686	9,451	9,603
	総数に占める割合(累計)	3.6%	16.2%	38.4%	98.4%	100.0%
文・人文(教育) ・外国語	教員数	289	1,485	2,398	10,520	412
	教員数(累計)	289	1,774	4,172	14,692	15,104
	総数に占める割合(累計)	1.9%	11.7%	27.6%	97.3%	100.0%
社会・国際	教員数	212	677	1,590	2,704	127
	教員数(累計)	212	889	2,479	5,183	5,310
	総数に占める割合(累計)	4.0%	16.7%	46.7%	97.6%	100.0%
芸術 ・スポーツ科学	教員数	186	668	541	2,975	243
	教員数(累計)	186	854	1,395	4,370	4,613
	総数に占める割合(累計)	4.0%	18.5%	30.2%	94.7%	100.0%
生活科学	教員数	35	144	861	1,651	23
	教員数(累計)	35	179	1,040	2,691	2,714
	総数に占める割合(累計)	1.3%	6.6%	38.3%	99.2%	100.0%
総合・環境 ・情報・人間	教員数	42	305	721	1,578	65
	教員数(累計)	42	347	1,068	2,646	2,711
	総数に占める割合(累計)	1.5%	12.8%	39.4%	97.6%	100.0%
理・工・理工	教員数	50	458	552	8,722	256
	教員数(累計)	50	508	1,060	9,782	10,038
	総数に占める割合(累計)	0.5%	5.1%	10.6%	97.4%	100.0%

教員数に占める割合が相対的に高いのは、「社会・国際」系や「総合・環境・情報・人間」系である。定員充足率 75%未満でみた場合には、実数では同様の傾向がみられるが、総教員数に占める割合が相対的に高いのは、「芸術・スポーツ科学」系や「社会・国際」系である。なお、定員充足率 50%未満でみた場合にも、同様の傾向がみられる。

## 4. 偏差値

前節では、定員充足率を手がかりとして、ボーダーフリー大学・学部及びそこに所属する学生や教員の量的規模を把握してきた。本節では、葛城・宇田(2016)と同様に、定員充足状況との相関が高い<sup>11)</sup> 偏差値を手がかりとして、端的に定員充足状況を判断する際の基準を明らかにするとともに、その基準でみた場合のボーダーフリー大学・学部及びそこに所属する学生や教員の量的規模を把握したい。

### 4-1. 学部数

まず、偏差値別に学部数を示したのが表 7 である。なお前節と同様に、上段に示しているのは各区分に該当する学部数、中段に示しているのはそれ以下の区分に該当する学部数を累計した学部数である(表 8 についても同様に表記)。また、下段に示しているのは中段に示している値(学部数(累計))が日本の大学の総学部数(昼間のみ、2,329 学部)に占める割合である。

この表と表 1(定員充足状況別学部数)を対応させるとわかるように、定員充足率 100%未満の学部数(482 学部)を超えるラインは、偏差値 37.5 以下である。偏差値 37.5 以下の学部が定員充足率 100%未満の学部であるわけでは必ずしもないにせよ、このラインを偏差値で端的に定員充足状況を判断する際のひとつの基準と考えることもできるだろう。しかし、そうすると 100 学部以上多く見積もってしまうことになるため、このラインは引き下げて考える方が妥当だろう。すなわち、偏差値で端的に定員充足状況を判断する際のひとつの基準としては、偏差値 37.4 以下が妥当であると考えられる。

表 7 偏差値別学部数

	BF	37.4	37.5	40.0	42.5	45.0
学部数	171	275	165	145	120	100
学部数(累計)	171	446	611	756	876	976
総数に占める割合(累計)	7.3%	19.1%	26.2%	32.5%	37.6%	41.9%

前節と同様に、表 7 の結果を専門分野別に示したのが表 8 である。なお、下段に示しているのは中段に示している値(学部数(累計))が、2016 年版の『大学ランキング』に掲載されている「入試難易度ランキング」の当該カテゴリに該当する、すべての私立大学の総学部数に占める割合である。

この表と表 2(定員充足状況別学部数(専門分野別))を対応させるとわかるように、定員充足率 100%未満の学部数を超えるラインは、カテゴリによって少なからず違いがある。すなわち、「法・政治」系や「経済・経営・商」系などでは偏差値 37.4 以下であるのに対し、「文・

人文（教育）・外国語」系や「社会・国際」系、「生活科学」系では偏差値 37.5 以下である。先述のように、偏差値で端的に定員充足状況を判断する際のひとつの基準としては、偏差値 37.4 以下が妥当であると考えられるが、特に「文・人文（教育）・外国語」系や「社会・国際」系、「生活科学」系では、このラインは引き上げて考える方が妥当だろう。すなわち、特にこれらのカテゴリでは、偏差値 37.5 以下が妥当であると考えられる。

表 8 偏差値別学部数（専門分野別）

		BF	37.4	37.5	40.0	42.5	45.0
法・政治	学部数	19	11	4	7	8	8
	学部数(累計)	19	30	34	41	49	57
	総数に占める割合(累計)	21.8%	34.5%	39.1%	47.1%	56.3%	65.5%
経済・経営・商	学部数	66	66	25	19	25	15
	学部数(累計)	66	132	157	176	201	216
	総数に占める割合(累計)	24.0%	48.0%	57.1%	64.0%	73.1%	78.5%
文・人文(教育) ・外国語	学部数	34	71	52	52	36	30
	学部数(累計)	34	105	157	209	245	275
	総数に占める割合(累計)	8.7%	27.0%	40.4%	53.7%	63.0%	70.7%
社会・国際	学部数	26	44	19	18	14	11
	学部数(累計)	26	70	89	107	121	132
	総数に占める割合(累計)	15.4%	41.4%	52.7%	63.3%	71.6%	78.1%
芸術 ・スポーツ科学	学部数	25	25	24	10	13	7
	学部数(累計)	25	50	74	84	97	104
	総数に占める割合(累計)	22.3%	44.6%	66.1%	75.0%	86.6%	92.9%
生活科学	学部数	9	16	13	15	3	12
	学部数(累計)	9	25	38	53	56	68
	総数に占める割合(累計)	10.5%	29.1%	44.2%	61.6%	65.1%	79.1%
総合・環境 ・情報・人間	学部数	14	21	10	7	9	6
	学部数(累計)	14	35	45	52	61	67
	総数に占める割合(累計)	16.7%	41.7%	53.6%	61.9%	72.6%	79.8%
理・工・理工	学部数	14	21	18	17	12	11
	学部数(累計)	14	35	53	70	82	93
	総数に占める割合(累計)	9.2%	22.9%	34.6%	45.8%	53.6%	60.8%

#### 4-2. 学生数

次に、偏差値別に学生数を示したのが表 9 である。なお前節と同様に、上段に示しているのは各区分に該当する学生数、中段に示しているのはそれ以下の区分に該当する学生数を累計した学生数である（表 10 についても同様に表記）。また、下段に示しているのは中段に示している値（学生数（累計））が日本の大学の総学生数（昼間のみ、2,529,403 人）に占める割合である。

この表と表 3（定員充足状況別学生数）を対応させるとわかるように、定員充足率 100%未達の学部には所属する学生数（348,569 人）を超えるラインは、偏差値 37.5 以下である。前項と同様、このラインを偏差値で端的に定員充足状況を判断する際のひとつの基準と考えると 14 万人程度多く見積もってしまうことになるため、やはりこのラインは引き下げて考える方が妥当だろう。すなわち、学生数という観点からみても、偏差値で端的に定員充足状況を判断する際のひとつの基準としては、やはり偏差値 37.4 以下が妥当であると考えられる。

表 9 偏差値別学生数

	BF	37.4	37.5	40.0	42.5	45.0
学生数	99,050	202,338	185,358	168,317	172,439	138,714
学生数(累計)	99,050	301,388	486,746	655,063	827,502	966,216
総数に占める割合(累計)	3.9%	11.9%	19.2%	25.9%	32.7%	38.2%



これまでと同様に、表 9 の結果を専門分野別に示したのが表 10 である。なお、下段に示しているのは中段に示している値（学部数（累計））が、2016 年版の『大学ランキング』に掲載されている「入試難易度ランキング」の当該カテゴリに該当する、すべての私立大学の総学生数に占める割合である。

この表と表 4（定員充足状況別学生数（専門分野別））を対応させるとわかるように、定員充足率 100%未満の学部には所属する学生数を超えるラインは、カテゴリによって少なからず違いがある。すなわち、「法・政治」系や「芸術・スポーツ科学」系などでは偏差値 37.4 以下であるのに対し、「経済・経営・商」系や「文・人文（教育）・外国語」系、「生活科学」系などでは偏差値 37.5 以下、「社会・国際」系にいたっては偏差値 40.0 以下である。前項では、偏差値で端的に定員充足状況を判断する際のひとつの基準としては、偏差値 37.4 以下が妥当であるが、特に「文・人文（教育）・外国語」系や「社会・国際」系、「生活科学」系では、偏差値 37.5 以下が妥当であると述べたが、学生数という観点からみても、これらのカテゴリでは、やはり偏差値 37.5 以下が妥当であると考えられる。

表 10 偏差値別学生数（専門分野別）

		BF	37.4	37.5	40.0	42.5	45.0
法・政治	学生数	12,504	9,227	3,757	9,276	11,189	12,655
	学生数(累計)	12,504	21,731	25,488	34,764	45,953	58,608
	総数に占める割合(累計)	8.8%	15.4%	18.0%	24.6%	32.5%	41.4%
経済・経営・商	学生数	45,822	62,528	42,588	19,935	36,710	29,032
	学生数(累計)	45,822	108,350	150,938	170,873	207,583	236,615
	総数に占める割合(累計)	11.3%	26.8%	37.3%	42.2%	51.3%	58.4%
文・人文(教育) ・外国語	学生数	15,196	42,170	39,622	53,516	43,945	39,204
	学生数(累計)	15,196	57,366	96,988	150,504	194,449	233,653
	総数に占める割合(累計)	3.5%	13.2%	22.2%	34.5%	44.6%	53.6%
社会・国際	学生数	12,533	25,222	16,252	15,783	13,966	15,529
	学生数(累計)	12,533	37,755	54,007	69,790	83,756	99,285
	総数に占める割合(累計)	7.6%	22.9%	32.8%	42.4%	50.9%	60.3%
芸術 ・スポーツ科学	学生数	12,245	17,029	25,442	17,160	23,717	13,440
	学生数(累計)	12,245	29,274	54,716	71,876	95,593	109,033
	総数に占める割合(累計)	10.3%	24.6%	46.0%	60.4%	80.4%	91.7%
生活科学	学生数	3,638	12,189	13,012	9,165	1,624	6,296
	学生数(累計)	3,638	15,827	28,839	38,004	39,628	45,924
	総数に占める割合(累計)	5.1%	22.3%	40.7%	53.6%	55.9%	64.8%
総合・環境 ・情報・人間	学生数	7,545	14,671	13,379	8,268	10,082	5,542
	学生数(累計)	7,545	22,216	35,595	43,863	53,945	59,487
	総数に占める割合(累計)	8.5%	25.0%	40.1%	49.4%	60.8%	67.1%
理・工・理工	学生数	11,525	19,302	31,306	35,214	31,206	17,016
	学生数(累計)	11,525	30,827	62,133	97,347	128,553	145,569
	総数に占める割合(累計)	4.1%	10.9%	21.9%	34.4%	45.4%	51.4%

#### 4-3. 教員数

最後に、偏差値別に教員数を示したのが表 11 である。なお前節と同様に、上段に示しているのは各区分に該当する教員数、中段に示しているのはそれ以下の区分に該当する教員数を累計した教員数である（表 12 についても同様に表記）。また、下段に示しているのは中段に示している値（教員数（累計））が日本の大学の総教員数（学部には所属する教員のみ、92,989 人）に占める割合である。

この表と表 5（定員充足状況別教員数）を対応させるとわかるように、定員充足率 100%未満の学部には所属する教員数(14,576 人)を超えるラインは、偏差値 37.5 以下である。

前項と同様、このラインを偏差値で端的に定員充足状況を判断する際のひとつの基準と考えると、4,000人以上多く見積もってしまうことになるため、やはりこのラインは引き下げて考える方が妥当だろう。すなわち、教員数からみても、偏差値で端的に定員充足状況を判断する際のひとつの基準としては、やはり偏差値 37.4 以下が妥当であると考えられる。

表 11 偏差値別教員数

	BF	37.4	37.5	40.0	42.5	45.0
教員数	4,594	8,563	6,064	5,437	4,812	4,050
教員数(累計)	4,594	13,157	19,221	24,658	29,470	33,520
総数に占める割合(累計)	4.9%	14.1%	20.7%	26.5%	31.7%	36.0%

これまでと同様に、表 11 の結果を専門分野別に示したのが表 12 である。なお、下段に示しているのは中段に示している値（教員数（累計））が、2016 年版の『大学ランキング』に掲載されている「入試難易度ランキング」の当該カテゴリに該当する、すべての私立大学の総教員数に占める割合である。

この表と表 6（定員充足状況別教員数（専門分野別））を対応させるとわかるように、定員充足率 100%未満の学部には所属する教員数を超えるラインは、カテゴリによって少なからず違いがある。すなわち、「法・政治」系や「経済・経営・商」系などでは偏差値 37.4 以下であるのに対し、「文・人文（教育）・外国語」系や「社会・国際」系、「生活科学」系などでは、偏差値 37.5 以下である。前々項では、偏差値で端的に定員充足状況を判断する際のひとつの基準としては、偏差値 37.4 以下が妥当であるが、特に「文・人文（教育）・外国語」系や「社会・国際」系、「生活科学」系では、偏差値 37.5 以下が妥当であると述べたが、教員数という観点からみても、これらのカテゴリでは、やはり偏差値 37.5 以下が妥当であると考えられる。

表 12 偏差値別教員数（専門分野別）

		BF	37.4	37.5	40.0	42.5	45.0
法・政治	教員数	477	297	88	202	232	271
	教員数(累計)	477	774	862	1,064	1,296	1,567
	総数に占める割合(累計)	15.6%	25.3%	28.1%	34.7%	42.3%	51.2%
経済・経営・商	教員数	1,779	1,952	937	478	776	538
	教員数(累計)	1,779	3,731	4,668	5,146	5,922	6,460
	総数に占める割合(累計)	18.5%	38.7%	48.4%	53.4%	61.4%	67.0%
文・人文(教育) ・外国語	教員数	888	2,135	1,627	1,831	1,384	1,380
	教員数(累計)	888	3,023	4,650	6,481	7,865	9,245
	総数に占める割合(累計)	5.8%	19.9%	30.6%	42.6%	51.7%	60.8%
社会・国際	教員数	673	1,231	605	514	420	378
	教員数(累計)	673	1,904	2,509	3,023	3,443	3,821
	総数に占める割合(累計)	12.6%	35.7%	47.1%	56.7%	64.6%	71.7%
芸術 ・スポーツ科学	教員数	708	939	875	742	707	404
	教員数(累計)	708	1,647	2,522	3,264	3,971	4,375
	総数に占める割合(累計)	15.3%	35.7%	54.7%	70.8%	86.1%	94.8%
生活科学	教員数	199	519	523	411	59	256
	教員数(累計)	199	718	1,241	1,652	1,711	1,967
	総数に占める割合(累計)	7.3%	26.5%	45.7%	60.9%	63.0%	72.5%
総合・環境 ・情報・人間	教員数	327	514	399	196	278	151
	教員数(累計)	327	841	1,240	1,436	1,714	1,865
	総数に占める割合(累計)	12.1%	31.0%	45.7%	53.0%	63.2%	68.8%
理・工・理工	教員数	577	976	1,010	1,063	956	672
	教員数(累計)	577	1,553	2,563	3,626	4,582	5,254
	総数に占める割合(累計)	5.7%	15.5%	25.5%	36.1%	45.6%	52.3%

## 5. おわりに

本稿では、葛城・宇田 (2016) とは異なる定員充足率や偏差値を手がかりとして、ボーダーフリー大学・学部及びそこに所属する学生や教員の量的規模に関する基礎的情報を整理してきた。本稿で得られた主要な知見は以下の通りである。

第一に、定員充足率 100%未満の学部は 500 学部に迫る勢いであり、これは日本の大学の総学部数 (昼間のみ) の 20%以上を占めていることが確認された。また、そこに所属する学生は 30 万人、教員は 1 万人を大きく超えており、これは日本の大学の総学生数 (昼間のみ) / 総教員数 (学部) に所属する教員のみ) の 15%程度を占めていることが確認された。

第二に、専門分野別にみると、定員充足率 100%未満の学部及びそこに所属する学生や教員が実数として多いのは、「文・人文 (教育)・外国語」系と「経済・経営・商」系であることが確認された。また、当該カテゴリに該当する私立大学の総学部数 / 総学生数 / 総教員数に占める割合が高いのは、総じて「社会・国際」系であることが確認された。

第三に、定員充足率 100%未満の学部数 / 学部) に所属する学生数 / 同教員数を超えるラインは偏差値 37.5 以下であることが確認された。しかし、このラインだと定員充足率 100%未満でない学部が多く含まれる可能性があるため、偏差値で端的に定員充足状況を判断する際のひとつの基準としては、偏差値 37.4 以下が妥当であることが確認された。

第四に、専門分野別にみると、定員充足率 100%未満の学部数 / 学部) に所属する学生数 / 同教員数を超えるラインは少なからず違いがあることが確認された。すなわち、特に「文・人文 (教育)・外国語」系や「社会・国際」系、「生活科学」系では、偏差値で端的に定員充足状況を判断する際のひとつの基準としては、偏差値 37.5 以下が妥当であることが確認された。

本稿で得られたこれらの知見は、基礎的情報すら明確には把握されていなかった現状においては、今後のボーダーフリー大学研究に資する重要な知見であるといえるだろう。特にどのような専門分野を対象とするのかによって、ボーダーフリー大学・学部の判断基準となる偏差値を変えていくことが必要だと示した知見は重要である。ボーダーフリー大学・学部及びそこに所属する学生や教員を対象に質問紙調査を行う場合、こうした知見がサンプリング等を行う際に考慮すべき重要な知見となるのは間違いない。

ただし、留意しておかなければならないのは、偏差値で端的に定員充足状況を判断する際のひとつの基準が偏差値 37.4 以下であることが明らかになったとしても、今後それに該当する大学・学部を対象に質問紙調査を行うのは容易ではないということである。

なぜなら、2017 年版の『大学ランキング』から「入試難易度ランキング」が掲載されなくなったため、それに基づきサンプリング等を行うことができなくなってしまったからである。勿論、2016 年版の『大学ランキング』に掲載されている「入試難易度ランキング」を作成する際に用いられていた河合塾のデータに基づき、サンプリング等を行うことは可能ではある。しかし、「入試難易度ランキング」が「学部」レベルで偏差値を算出している

のに対し、河合塾のデータは主に「学科・入試方法」レベルで偏差値を算出している。「学科・入試方法」レベルで分析することも可能ではあるが、学科別の学生数や教員数を当該大学・学部のホームページなどから取得する必要があるため、分析の手続きが煩雑になることは免れない。したがって、偏差値は、端的に定員充足状況を判断する際の指標として、適切なものではなくなっているのである。

こうしたことを踏まえれば、ボーダーフリー大学・学部及びそこに所属する学生や教員を対象に質問紙調査を行う場合には、改めて「定員充足率」という指標に立ち返る必要があるだろう。その上で、定員充足率をより簡便な方法で算出するためには、本稿の分析と同様に、特定年度の定員充足率を算出するのが最善であると考えられる。なぜなら、葛城・宇田（2016）で用いた算出方法に比べ、多くの手続きを要さないため、より容易に定員充足率を算出することができるからである。しかし、こうした算出方法で定員充足率を算出したとしても、学部別での分析にはなお、「情報の欠如」という課題が残されている。

すなわち、2017年版の『大学ランキング』では、主に当該大学に所属する総学生数・総教員数が掲載されるようになっており、学部ごとの学生数・教員数が掲載されなくなっている。そのため、今後は、ボーダーフリー大学・学部所属する学生や教員の量的規模を把握するには、当該大学・学部のホームページからデータを取得する、あるいは、他の教育雑誌からデータを取得する、という手続きを取らなければならない。

また、2017年版の『大学ランキング』から「入試難易度ランキング」が掲載されなくなったことに伴い、ある学部がどの専門分野（カテゴリ）に分類されているのかを端的に判断することが難しくなっている。そのため、今後は、ある学部がどの専門分野に分類されているのかを判断するために、他の教育雑誌を参考にする、あるいは、それらをもとに指標を作成する、という手続きを取らなければならない。

このように、ボーダーフリー大学・学部及びそこに所属する学生や教員を対象に質問紙調査を行う場合のハードルは、これまでに比べ間違いなく高くなっている。上記のような「情報の欠如」という課題に対して、いかに効率的に対応するかが問われているのである。

（宇田 響）

## 注

- 1) これは本稿の定義である。「ボーダーフリー大学」という用語自体は、そもそも河合塾による大学の格付けにおいて、通常の入試難易度がつけられない大学の意味で用いられている。
- 2) 『大学ランキング』に入学人数を掲載していない学部については、当該大学・学部のホームページを参照し、そこに挙げられている値を用いることとした。
- 3) 加えて、島野（2016）も指摘するように、単年度の定員充足率は入学定員数を変えれば簡単に変動してしまうため、定員充足率を実態よりも高く見積もってしまう可能性があるためでもあった。

- 4) ここでいう『大学ランキング』に掲載されている「入試難易度ランキング」で「医・歯・薬・看護・保健」及び「農・水産」以外のカテゴリに該当する私立大学の学部」とは、文字通りそうしたカテゴリに「該当する」私立大学の学部であって、そうしたカテゴリに掲載されている私立大学の学部のことではない。すなわち、「入試難易度ランキング」に掲載されていない「ボーダー・フリーの大学・学部」（合格率 50%となるラインがどの偏差値帯においても存在しない大学・学部と定義されている）も分析対象としている。なお、本稿の分析では、『大学ランキング』に掲載されている「入試難易度ランキング」と河合塾『Guideline』に掲載されている分類を参考として、カテゴリを作成している。
- 5) 2016年版の『大学ランキング』に掲載されている「入試難易度ランキング」において、複数のカテゴリで確認された大学・学部（津田塾大学・学芸学部、東京女子大学・現代教養学部、日本大学・文理学部）は、全体の分析では一つの学部としてカウントしているが、専門分野別の分析では専門分野ごとにカウントしている。また、「入試難易度ランキング」に掲載されていない「ボーダー・フリーの大学・学部」で、複数のカテゴリに該当する大学・学部（32学部）は、全体の分析では一つの学部としてカウントしているが、専門分野別の分析では専門分野ごとにカウントしている。そのため、全体の分析で分析対象となるのは 1,311 学部であるが、専門分野別の分析で分析対象となるのは 1,350 学部となる。
- 6) 2016年版の『大学ランキング』に掲載されている「入試難易度ランキング」において、複数のカテゴリで確認された大学・学部はない。また、「入試難易度ランキング」に掲載されていない「ボーダー・フリーの大学・学部」で、複数のカテゴリに該当する大学・学部（32学部）は、全体の分析では一つの学部としてカウントしているが、専門分野別の分析では専門分野ごとにカウントしている。そのため、全体の分析で分析対象となるのは 976 学部であるが、専門分野別の分析で分析対象となるのは 1,012 学部となる。
- 7) 日本の大学の総学部数（昼間のみ）は、文部科学省『平成 26 年度 学校基本調査報告書（高等教育機関編）』に掲載されている平成 26 年度の値（昼間）を用いている。次節の偏差値別学部数の分析においても同様である。
- 8) 日本私立学校振興・共済事業団広報（2012）によれば、平成 24 年度の定員充足率 50%未満の私立大学の割合は 3.1%である。これと比べて本稿の値がやや低いのは、大学レベルでの算出か、学部レベルでの算出か、という算出レベルの違いが関係していると考えられる。
- 9) 日本の大学の総学生数（昼間のみ）は、文部科学省『平成 26 年度 学校基本調査報告書（高等教育機関編）』に掲載されている平成 26 年度の値（昼間:学部）を用いている。次節の偏差値別学生数の分析においても同様である。
- 10) 日本の大学の総教員数（学部に所属する教員のみ）は、文部科学省『平成 25 年度 学校教員統計調査報告書』の「閲覧公表」として公表されている「年齢別 職名別 性



別 本務教員数（学部・大学院）」のうち、「学部（計）」の平成 25 年度の値（本務教員のうち、教授、准教授、講師の合計）を用いている。平成 26 年度の値を用いたところではあるが、3 年毎に刊行されるこの報告書ではそれができないので、平成 25 年度の値を用いている。次節の偏差値別教員数の分析においても同様である。なお、『大学ランキング』に掲載されている学部教員数は、専任の講師以上の教員数であるが、講師職を廃止した一部の大学については助教以上の教員数である。

- 11) 定員充足率と偏差値との相関関係を分析した結果、相関係数は 0.419 であった（なお、「ボーダー・フリーの大学・学部」は便宜的に「偏差値 35」として分析した）。この結果からも、定員充足率と偏差値が高い相関関係にあることがわかるが、相関係数が 1 でないことから明らかなように、定員充足率は高くても偏差値は低い学部や、定員充足率は低くても偏差値は高い学部は、当然のことながら存在する。定員充足率と偏差値との対応関係を表 13 に示しておく。

表 13 定員充足率と偏差値との対応関係

	偏差値						合計	
	BF	37.4	37.5	40.0	42.5	45.0		
定員充足率	50%未満	24	23	8	1	0	0	56
		2.5%	2.4%	0.8%	0.1%	0.0%	0.0%	5.8%
	50%以上-75%未満	68	80	15	2	0	0	165
		7.0%	8.2%	1.5%	0.2%	0.0%	0.0%	17.0%
	75%以上-100%未満	59	93	40	30	5	4	231
		6.1%	9.6%	4.1%	3.1%	0.5%	0.4%	23.8%
	100%以上-125%未満	19	69	92	100	109	92	481
		2.0%	7.1%	9.5%	10.3%	11.2%	9.5%	49.5%
	125%以上	1	7	10	12	5	4	39
		0.1%	0.7%	1.0%	1.2%	0.5%	0.4%	4.0%
	合計	171	272	165	145	119	100	972
		17.6%	28.0%	17.0%	14.9%	12.2%	10.3%	100.0%

注：上段は実数、下段は全体に占める割合。

## 参考文献

- 朝日新聞出版（2014）『2015 年版大学ランキング』朝日新聞出版。  
 朝日新聞出版（2015）『2016 年版大学ランキング』朝日新聞出版。  
 朝日新聞出版（2016）『2017 年版大学ランキング』朝日新聞出版。  
 河合塾（2015）『Guideline 2015.12』河合塾全国進学情報センター。  
 葛城浩一・宇田響（2016）「ボーダーフリー大学の量的規模に関する基礎的研究」香川大学大学教育基盤センター編『香川大学教育研究』第 13 号、91 - 103 頁。  
 文部科学省（2014）『平成 26 年度 学校基本調査報告書（高等教育機関編）』。  
 文部科学省（2015）『平成 25 年度 学校教員統計調査報告書』。  
 文部科学省（2015）『平成 25 年度 学校教員統計調査』、「年齢別 職名別 性別 本務教員数（学部・大学院）」（<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?bid=000001058828&cycod=0>）（閲覧日：2016 年 6 月 22 日）。  
 日本私立学校振興・共済事業団広報（2012）「平成二十四年度私立大学・短期大学等入学

志願動向」『月報私学』Vol.177、6－7頁。

島野清志 (2016) 『危ない大学・消える大学 2017年版』エール出版社。

山田浩之 (2009) 「ボーダーフリー大学における学生調査の意義と課題」広島大学大学院  
教育学研究科編『広島大学大学院教育学研究科紀要』第三部第58号、27－35頁。